

英語ことわざ使用の実態について

奥田 隆一

(関西大学名誉教授)

1. 英語のことわざの本の特徴

英語のことわざに関しては、日本でもたくさんの本が出版されているが、従来のことわざの解説本のほとんどのものが、その「由来」と「意味」を説明しているだけで、その使用例を解説しているものはほとんどないのが現状である。それでは、ほとんどのことわざの本には実例が引用されていないのはなぜなのだろうか。それはことわざの使用頻度がそんなに高くないからである。そのため、昨今流行のコーパス言語学でも、あまり扱われないのである。たとえば、*It is no use crying over spilt milk.* ということわざがあるが、大規模コーパスと呼ばれる BNC であっても、*spilt milk* をキーワードとしての検索結果は 10 例だけである。*There is no use crying over spilt milk.* という変異形と比較しようとしても、数が少なすぎて、何も考察出来ない。つまり、ことわざ研究に既存のコーパスは向いていないことが分かるのである。

2. 使用の実態をどのようにして探るのか

それでは、英語ことわざの使用の実態をどのようにして探ればいいのか。コーパスというのは、色々なジャンルの実例からある程度平等に取ってきて、全体的な特徴を探ろうとする際に威力を発揮するが、その数が少ない場合にはほとんど役に立たないのである。それではどうすればいいのか。ここで発想の転換をするのである。つまり、ことわざ研究に関する限り、平等性を犠牲にしても、量的に多い事を重視するのである。そのためには、データの平等性や平均化を無視する事を容認するのである。そこで考えられるのがデータベースの活用である。

コーパスでは用法が探れないけれども、データベースなら量的に探ることが出来るのである。データベースといっても、どのようなものが活用出来るのだろうか。活用するのが簡単なのは、新聞記事のデータベースである。これを使って調べるのが便利なのが、各国の新聞によることわざの変異形の比較である。英米差だけでなく、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語との比較もできるので便利である。

ただし、問題点もある事をしっかり受け止めておかなければならない。それは、新聞英語特有の用法であるかもしれない事である。この事をしっかり認識しているのであれば、世界各国で使われていることわざを突き止めることが可能であり、コーパスより勝る方法である。

3. どのような事を調べるべきか

データベースを使うことにより、どのような事を調べることが出来るのかを見てみることにする。知りたいのは、実際にどのようなことわざが、どのように使用されているのかである。その時に問題となるのは以下のポイントである。

- (1) どのような形で使用されるのか？ (2) どのような意味で使用されるのか？
 (3) どのような状況で使用されるのか？ (4) どのような地域差があるのか？

(1) の「どのような形で使用されるか？」を知るには、ことわざの原形と変異形を調べればよい。変異形には次の4つのタイプが考えられる。

1. 一部の語句が同意の語句で替えられる場合

- (a) A penny saved is a penny **earned**. (b) A penny saved is a penny **gained**.

2. 語句が省略・付加される場合

- (a) Lightning never **strikes twice**.
 (b) Lightning never **strikes the same place twice**.
 (c) Lightning never **strikes twice in the same place**.

3. 文意を変えないで別の文構造を使う場合

- (a) **It is no use** crying over spilt milk. (b) **There's no use** crying over spilt milk.
 (c) **There's no point** crying over spilt milk. (これは1のタイプ)

4. 文脈に応じて使われる一時的な場合

Lucifer: If you mean solve a mystery, then yes. And with you and I working on this case together, **it'll kill two mysteries with one stone**, hmm? -- *Lucifer*, S3E13

(2) と (3) の「どのような意味で使用されるのか？」と「どのような状況で使用されるのか？」に関しては、これから具体例を見ながら、分析が待たれるところである。

(4) の「どのような地域差があるのか？」に関しては一例をあげると、次のようになる。

- a. It never rains but it pours. Am 10, Br 357, Aus 3, Can 0, Others 3
 b. When it rains, it pours. Am 200, Br 82, Aus 19, Can 21, Others 60

さらに、データベースを使うことによって、「一部分だけがよく使われることわざ」や「使用頻度」も調べることが出来る。[]内の数字は頻度を表している。

- a. Too many cooks spoil the broth. [149] → Too many cooks～. [692]
 b. Don't count your chickens before they are hatched. [10]
 → Don't count your chickens～. [119]

また、「使われなくなっていることわざ」もデータベースを使うとわかってくる。以下のことわざは現在ではほとんど使われていない。

1. Even Homer sometimes nods.
2. A drowning man will catch at a straw.
3. If you run after two hares, you will catch neither.
4. Health is above wealth.

さらに、補助的に Google Ngram Viewer (<https://books.google.com/ngrams>) を使用するのが便利である。たとえば、**First come, first served.** と **First come, first serve.** の使用の変遷（1950年から2008年）を見てみると、以下のようになる。

First come first served. [9402] **First come first serve.** [1406]

ただし、Ngram Viewer の問題点は5語以下の連鎖しか比べられない事で、上手く調べることの出来ないことわざが多い事である。

4. まとめ

以上のように、英語のことわざに関する研究に関して、まだまだ研究しなければならない事とその研究手法について、語法学的観点から私見を述べたのだが、このような観点から、地道に英語のことわざに関する研究が促進される事を期待したい。

参考文献

Burke, David (1995) *Street Talk 3*, Optima Books.

Neal R. Norrick (1985) *How proverbs mean : semantic studies in English proverbs.*

Mouton.

奥田隆一（2020）『英語ことわざ使用の実態』関西大学出版部。